

高精度次世代DNA分析による 品種・個体・産地・種識別技術の事業化検証

課題番号：STSC20018
研究代表者：東北大学
助教 松尾 歩

■ 課題：増加する**品種育成者の権利侵害**や**食品偽装**（産地等）

- 品種育成者の権利保有者の8.4%が海外流出を経験
例) 侵害疑義のあるシイタケの生産額：推定100億円
- 食品の模倣被害額：10兆円規模



イチゴ品種



菌床シイタケ

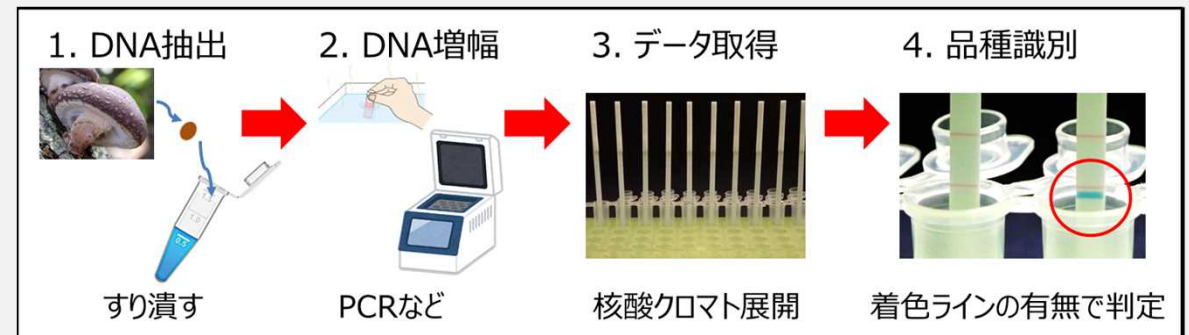
DNAを用いた品種・個体・産地識別法の確立が急務

⇒ **MIG-seq** (Multiplexed ISSR genotyping by sequencing) **法を用いた独自の分析技術**

- あらゆる生物のDNA情報を最短3日で取得（迅速）
- 近縁な作物品種の識別も可能（実効性）
- 多検体の同時分析（安価）

■ 提供サービス例

- ① 品種・個体・産地・種などの異同識別
- ② 混入物・トレーサビリティ検査
- ③ DNAデータ活用サービス
- ④ 簡易DNA判定キットの開発



特殊な機器をほとんど必要としない簡易DNA判定キット（検査時間：1時間程度）